

令和元年度第2回三次市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和元年8月29日(木)
開会：10時 閉会：11時
- 2 会 場 三次市役所本館6階 603会議室
- 3 出席構成員
市 長 福 岡 誠 志
教 育 長 松 村 智 由
教育委員 小根森 直 子
教育委員 藤 原 博 己
教育委員 深 水 顕 真
教育委員 井 岡 直 美
- 4 出席職員等
(教育委員会)
教 育 次 長 長 田 瑞 昭
事務局付課長 赤 木 実
事務局付課長 広 瀬 恭 子
学校教育課長 大 原 哲 也
文化と学びの課長 古 矢 俊 彦
(事務局)
総務企画部長 中 村 好 宏
秘書広報課長 笹 岡 潔 史
秘書広報課主事 畝 岡 あ き
(傍 聴 者) 5人
- 5 協議事項
三次市教育大綱の改訂について

秘書広報課長 開会に先立ち、会議の公開についてお諮りさせていただく。総合教育会議は原則として公開により開催する。報道関係者を除き、傍聴者の方が写真撮影等をされる場合、あらかじめ許可が必要となっている。写真等の撮影を許可してよろしいか。

構成員一同 一異議なし

秘書広報課長 ただ今から、令和元年度第2回三次市総合教育会議を開会する。構成員は、市長、教育長、教育委員となっており、本日は全構成員の出席によって、開催させていただく。それでは、開会にあたり、福岡市長からごあいさつを申し上げます。

福岡市長 本日は第2回三次市総合教育会議にあたり、皆様方には大変ご多忙の中お集まりいただき、感謝申し上げます。

昨日から秋雨前線の影響により、九州北部では各自治体で甚大な被害が報道されている。三次市においても、昨日深夜に大雨警報が発令され、情報収集に努めているが、今のところ大きな被害もなく小雨になったという状況で多少安堵している。その影響もあり、本日は市内の小中学校すべて臨時休業ということになった。本来であれば、本日から小中学校で2学期がスタートする予定だったが、子どもたちの安全という面を考えれば仕方がないと思っており、子どもたちの安心安全な学びを支えていきたいと考えている。

これから2学期が始まるということだが、他の自治体と比べて三次市は多少夏休みが短く、2学期のスタートが早い。勉強やスポーツを子どもたちが頑張ってくれると期待している。

また、4月に「全国学力・学習状況調査」の結果が発表された。市内の小・中学校とも、全教科において全国平均を上回っている状況であり、全体的にはこれまでの成果が見られるものだと感じている。一方で、小学校の算数や中学校の数学をはじめ、改善すべき課題というの表れている。子どもたち一人ひとりに寄り添った指導となるよう、教育委員会や学校にはこれからも工夫をいただく中で、子どもたちの基礎基本となる学力の定着に向けてお願いしたいと考えている。

テストに関連した調査では、読書好きの子は学力が高いという傾向が全国的にも見られるという興味深い結果が得られており、本市でも同様の傾向が見られている。本日協議する教育大綱の改訂案

にも関連するが、これから学校図書を充実させて、子どもたちにさらに読書に親しんでもらい、そして本がもっと子どもたちにとって身近になるような環境を作っていきたいと考えている。

本日は三次市教育大綱の改訂について協議させていただくが、今後とも三次の教育の向上のために、ご理解とご協力いただくようお願い申し上げ、開会のあいさつに代えさせていただきます。

秘書広報課長 続いて、次第の「2 協議事項」に移らせていただく。ここからの進行については、この会議の議長である、福岡市長にお願いする。

福岡市長 第2次三次市教育大綱改訂案について、協議をしていきたいと思う。本日は7月19日に開催された、第1回三次市総合教育会議での意見を踏まえて作成した改訂案をお示しする。

まずは、お配りしている「第2次三次市教育大綱の改訂について」を基に、改訂案の内容について事務局から説明をお願いしたい。

教育次長 第2次三次市教育大綱の改訂について、説明させていただく。

1の改訂の主旨は、本年4月の福岡市長就任に伴い、7月19日に開催された三次市総合教育会議において、表明された市長の思いや各教育委員からの意見を受けた協議を踏まえ、第2次三次市教育大綱の一部を改訂するものである。

2の改訂案の内容は、子どもたちの学びの環境を充実させるために、学校図書館のリニューアルと児童生徒一人一台、教育用のパソコンやタブレット端末を利用できる環境づくりを進めることを、追記しようとするものである。

具体的には、基本目標のⅡの1、生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）の育成に係るところである。現在6つの項目を○で表記しているが、その1つ目の次に新しく学校図書館の項を追加するものである。今見ていただいている資料の次に、新旧対照表もお付けしている。左側の改訂案に1つ○の次に下線を引いたところがあるが、これが新しく追記する場所である。

内容的には、本と子どもたちの距離を縮めることや、三次ならではの図書との関わりを考えていきたい。また、本と慣れ親しむ空間づくりが大切という項目もあり、各委員の方から、例えば本の読み聞かせが大切、司書の配置が大切、また、読書は紙から伝わるものがある等々、ご意見をいただいたところである。それらの意見を踏

まえ、追記の案として「児童生徒の知的好奇心を刺激し、自らの考えを深める力を育むため、もっと本を身近に感じられるよう、学習環境の整備を含めた学校図書館のリニューアルと学校司書の配置を行います。」と追加するものである。

続いて、学校におけるICTのことを述べているが、7月19日の意見の中で、市長から「教育用のパソコンやタブレット利用できる環境を早期に実現したい。ICTは手段である。」というご意向もいただいた。各委員からは、ICTの教育の振興については、電子黒板等を英語の授業などで効果的に使っていることや、ICTの教育には教職員のスキルアップが必要であるというご意見もいただいた。

今回の改訂案については、「学校におけるICT（情報通信技術環境）の整備を行い、学習活動を通して、情報活用能力の育成を図るとともに、英語教育の向上、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教育を推進します。さらに、児童生徒一人一台教育用のパソコンやタブレット端末が利用できる環境の早期実現を目指します。」と変更させていただく内容で、改訂案を作成させていただいた。

以上、説明とさせていただきます。

福岡市長　ただ今、前回のご意見を踏まえた改訂案の内容について、事務局より説明があった。

それでは、皆様方から説明に基づく意見や質疑をお願いしたいと思う。まず松村教育長からご意見があればお願いしたい。

松村教育長　それでは、先ほど説明があった大綱の改訂について、考えを述べさせていただきますと思う。

前回の7月19日に、先ほど説明いただいたことについて意見を述べたが、特に今日説明があった、学校図書館のリニューアル、そして学校におけるICT環境の整備については、これまでも教育委員会としてやっていこうと考えていたところで、年次計画もこれからしっかりと研究を重ねていきたいと思っている。また、図書館リニューアルについては、学校によっては特色ある学校づくりということで取組を進めている。例えば、君田小学校では、さらに子どもたちが本を手にとって読みたくなるような図書館を作っていこうと取り組んでいる。市内の各学校において、それぞれの実態に応じた形で実現出来ていければ、これからの三次市子ども

たちが更に本と親しみ、ICTを有効に活用して、さらに基礎学力をつけ、コミュニケーションのツールとして学習の中で役立てることにつながっていくと思う。非常に良い傾向だと思うし、重点化、明確化されていく1つのきっかけになると考えている。

福岡市長 それでは、皆様方から順次ご意見を伺いたいと思う。

小根森委員 今回の改訂については、図書館、そして英語教育の向上が加わったこと、ICTのこと合計3点かと思う。

まず図書館だが、先ほど松村教育長からあったように、少しずつ学校でリニューアルしてもらっている状況ではあるが、やはりこのようにしっかり書いていただいていることは大変良いことであると思う。また、学校司書の配置を記述していただいたのは大変有難いことだと思う。

ただ、文言について申し上げたい。基本目標Ⅱ－1の生きる力のところも変わるようだが、この中で図書館のリニューアルと学校司書の配置ということで、「児童生徒の知的好奇心を刺激し自らの考える力を育むため」とある。読書というのは、それプラス人間性を高めることや、豊かな心を育てることも大きな目標の1つだと思うので、それも取り入れたらいいと思う。

また、2番目の英語教育の向上について、三次市は以前から日本一の英語教育とうたってきており、本当に学校現場にも一生懸命やっているし、施策としても色々打ち出しているが、飛びぬけてのシンボルというのはなかなかない。前にも申し上げたが、これは私独自の考えだが、公立保育園で英語の触れる機会を持っていただきたいと思う。すでに三重県伊勢市の全ての公立保育園で、英語に触れる機会を作っている。ALTの先生が月1回来て、ちょっと子どもたちと触れ合ったり、それが無理であれば、英語の歌を流したり、ビデオを流すだけでもいいと思う。そのような環境を作ることによって、英語の力が飛びぬけることが出来るのではないかと、有効に親しむことが出来るのではないかと感じている。今日のところは一考いただければと思う。

それから、3番目のICTについて、やはりこれからデジタル教科書ということもあり、三次市がICTの環境を整えて、一人に一台タブレットというのは大変素晴らしいことだと思う。ぜひ推進していただきたいと思っている。

藤原委員 今回の改訂について、今の「生きる力」の中で、学校図書館のリニューアルと学校司書の配置を行うということは大変良いことだと思う。しかし、私は子どもたちに図書館（図書室）へ行きたいという思いを持たせることが大事だと思う。いくら本があるといっても、本も大事ではあるが、そこに行きたいという思いを持たせるようなリニューアルや、その仕方を考えていくべきだと思う。そして、本というのは本当に大事であると思っている。私も小学校で読んだ時の本というのは、ずっと心の中にあるが、それで夢も持ち、目標になる本は多々あると思う。そういった本に触れ合い、知ってもらうために司書の配置が大事だと思っている。

次のICTに関しては、先般、学校図書の選定に使ったということだが、教科書の随所にもQRコードがついている。本の中だけではなく、そこを見て、その奥を知るという機会が増えているので、今回タブレットを一人一台ずつというのは、本当に理想的な、理にかなったものだと思う。出来る限り早期の実現が出来ればと思っている。

深水委員 前回の会議内容を非常に上手くまとめていただき、分かりやすい形にさせていただいたと思っている。

特に図書館については、司書の配置ということで、人を配置することで十分に図書館が活用できる環境を整備していただいていると思う。

もう1つ、ICTのところだが、よく総論賛成・各論反対という話があるが、逆に各論は非常によくわかるが、むしろ総論のところをもう少し踏み込んでいただきたいと感じた。例えば図書館については、「児童生徒の知的好奇心を刺激し」ということで一般論から始まっているが、残念ながら次のICTに関しては「学校における」ということで、学校内に閉じてしまう感じがする。学校内だけの話ではなく、これからのICT・情報環境というのは、生活全般に関わってくるものだと思う。その意味では、文章的には生活全般の中でのICT活用、その中での学校教育であり、三次市の教育がどういう一端を担っていくのかという位置づけや、文章として全体的な視点が欲しいと感じた。その意味では、基本目標Ⅱの2番「ふるさとを愛し、グローバル社会の中で」という所の2つ目の○の所、「社会の急速なグローバル化の進展の中、外国語（英語）教育を小学校

から中学校まで」というところは、グローバル化が進んでいるから外国語教育が必要というように、非常に分かりやすい表現になっている。それと同じように情報環境が進展しているから、やはり学校の中での位置づけが必要だというところが欲しいと感じる。

もう1つは、活用能力というところで掘り下げていくと、メディアリテラシーということに繋がってくると思う。前回も少しお話をさせていただいたが、情報を選び分けて、本当に大切な情報を選び取る力のことである。これは子どもたちだけではなく、教員にも必要になってくるのではないかと思う。そういった意味では、教員に対しての、スタッフ側としてのスキルアップ、教育ということも大切になってくると思う。先ほど藤原さんから話があったが、今の教科書にはQRコードがついている。教科書自体は検定教科書で、QRコードによって動画に飛ぶことが出来るが、残念ながらそのURLの先の動画というのは、誰が提示するのか、担保するのははっきりしない。極端な話、誰かが悪意を持って入れ替えても分からない。それをちゃんと教員がURLの向こう側、教科書の向こう側をどう使っていくか、活用できるかというスキルをしっかりと作っていただきたいと思う。教科書だけに収まらず、インターネットを使うことによって、すごく社会が世界に広がっているのだから、上手く渡っていく力、利用する力ということを、ぜひどこかで少しうたっていただきたいと感じる。

井岡委員　　まとめていただき、より具体的に分かりやすくなったと思う。

1点目の学校図書館だが、リニューアルなどが願っていたが、希望が持てるようなものになってきたと思っている。特に学校司書ということで願いがあった。君田小学校の例をあげられたが、君田小学校では前からの歴史があるので、流れに乗ってやるということはやりやすいと思う。これから取り入れていくところについては、ギャップが出てくるのではないかという不安もあるため、大中小の学校規模に関わらず、全ての子どもたちに、この施策が上手く浸透するよう望んでいる。

ICTについては、私も深水委員と同じように、スキルアップの部分をお願いしたい。大変具体的に一人一台と打ち出していただき、ありがたいと感じた。

福岡市長　　それぞれ委員の皆様よりご意見をいただいた。

先般7月19日の開催以降、広島県、文部科学省に対して要望等をしているので、その報告をここでさせていただきたいと思う。

広島県にも、早速来年度の要望ということで、ICTを活用した学習環境の整備を新たな事項として付け加え、要望させていただいている。8月中旬に広島県教育委員会平川教育長から、三次市は小中学校のICT環境、つまり無線LANの接続率・整備率が非常に高いということで非常に進んでおり、ハードを活かして今後ICT教育を進めていただきたいという推薦をいただいた。その上で、文部科学省へも、三次市でそのような先進的な学びを推進したいということで要望させていただいている。結果はまだ受けていないが、この時代の流れの中で、ICTを活用した学校教育の充実について要望させていただいているという報告をここでさせていただく。

先ほどから皆様より様々な貴重なご意見をいただいた。司書についてのご意見や、図書室に行きたいと思えるような図書館の充実、あるいは夢・目標が持てる本をさらに充実させることや、本を読むことによって人間性・豊かな心を育むというご指摘もいただいた。色々な改訂、文言についてご提言をいただいたが、今いただいたご意見についても、皆様方から追加のご意見があればお願いしたい。

松村教育長

いただいた意見の中で確認として話をさせていただきたい。本市が英語についてしっかり取り組みを進めていくことは、これからグローバル化していく中で、社会で全世界を視野に入れながら活躍できる子どもを育成していくことであり、力を入れてきた。その結果の1つとして、これまでも委員の皆様にも申し上げてきたが、中学校卒業段階で英検3級相当以上の取得というのを国は大きく打ち出しており、その全国の平均が現在42.6%である。そして、広島県の中学校3年生卒業時での3級の取得は43.9%である。三次で受験をした子どもたちは57.6%という結果であり、本当に三次市内の子どもたちはよく頑張り、挑戦し、学習への取り組みも出来たと私も感じている。それが数値として表れてきたものだと思う。

また、井岡委員から学校図書館の整備について、リニューアルをした時に、これまでの図書館の歴史があるところ、特に君田の親子読書やノーテレビデーなど、いち早く取り組んできたところもあるとご指摘いただいた。例えば、他の学校でも現在市立図書館の司書の方に来ていただき、指導を受けている学校もあるが、今後学校司

書を配置するとなると、先ほど伺った学校による格差というよりも、同じような方向性・レベルで図書館づくりをしていくことにつながると思う。そういった所も今後期待したいと思い、話を聞かせていただいた。

小根森委員 1つ細かいことを言わせてもらおう。「はじめに(初めのあいさつ)」のところを変えられていると思う。この資料でいえば1枚目の最後の所に、「三次で学び三次の良さを感じながら、自分の夢を実現する力をつけ、様々なことにチャレンジする子どもたち、人と人のつながりの中で、ふるさと三次を大切にする、郷土愛を持った子どもたちを育てていきたい」というところについて、私はしつこいようだが、いかに心を育てることが学校教育ではすごく大事だと思う。そのことは中には書いてあると思うが、やはり豊かな心、温かい心を育てるということを、この「はじめに」の中にも一箇所どこかに入れていただければと感じている。

また、ICTについて、これからその方向へ向かうのが当たり前かもしれないが、反面で、知力への影響や脳の発達への影響ということも言われている。こちらの研究もやはりしていかなければならないと思うので、教育大綱にそれを組み込むかどうかは別として、そういうことも並行してやっていきたいと思う。

深水委員 今、小根森委員からあったように、ICT活用についての調査研究というのは、これから大きなテーマ・課題だと思っている。今までのメディアリテラシーというとなるべく近づけないように制限する方向の教育が多かったような気がするが、別な意味で、制限と同時に活用というシステムも必要となってくると思う。例えばある学校ではLINEを積極的に使うことで、主体的、対話的な教育のツールとして使っているという所もある。一方で、LINEを使うことによって、例えば影に隠れたいじめが起こっているという問題も同時に絡んでいる。そういうところを上手く活用するための調査研究というのが、どうしても必要である気がする。大綱の中に入れるべきかどうか分からないが、ぜひそういった方向性も含んでいただきたいと思う。

福岡市長 皆様方から今回の会議に基づいて、様々な面からご意見をいただいた。皆様のご意見を踏まえ、現在の教育大綱改訂を引き続き進

めていきたいと考えている。この点について、改訂に向けて進めさせていただいてもよろしいか。

構成員一同 一異議なし

福岡市長 本当に貴重で具体的なところまで踏み込んだ意見をいただき、ありがたく思う。皆様の同意をいただき、引き続き進めていくという方向性もいただいたので、以上で本日の会議の意見の集約を終了させていただきたいと思う。本日の会議の意見をもう一度整理し検討させていただいて、その中身を精査する作業を進めさせていただきたいと考えている。そして、それに基づく今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いしたいと思う。

秘書広報課長 市長も申し上げたように、本日のご意見を踏まえて今回お示した改訂案の方向は概ねご了承いただいたと思っている。今回お示した改訂案にいただいたご意見を加味して、再度ご連絡させていただき、修正案を確認していただければと思っている。ご了承いただければ、改訂案に対してパブリックコメントを実施し、その結果を受けて最終的には、年内に議会へ最終案を説明して、年内で改訂作業を終了するというスケジュールを予定している。

福岡市長 事務局より、大まかなスケジュール案について説明があった。皆様からご質疑等はないか。

それでは以上で協議事項を終わらせていただく。最後に松村教育長から一言お願いしたいと思う。

松村教育長 今回の教育大綱の整理、組み直しも含め、ICTのことも非常に課題であり、教育委員会でも委員の皆様からご意見をいただいている。現在学校で学んでいる子どもたちにはこれから将来があるわけだが、特に技術的特異点（シンギュラリティ）という時代を迎えることになる。これは何かというと、2045年を迎えたときに人口知能が人間の脳を超えるという技術的特異点、これをシンギュラリティと言うそうだが、子どもたちが今からこの時代を迎え、生活をしていくことになる。今以上に世の中が変わっていくと言われている。

そういった中で、今年の6月28日には学校教育の情報化推進

に関する法律が出されている。この法律の中で、今日委員の皆様からもご意見をいただいた、誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化した学びを実現していくためのAIや、ICTの活用をうたっており、そういった研究も進んできている。また、今日それを指導していく教職員の力量や資質の向上ということもご指摘いただいたが、この法律中でも学校の教職員の資質向上ということもうたっている。学校教員の要請や、教職員の研修をしっかりと続けていくことが大事だということも述べている。これらは現在、国から県教育委員会へ対して、そういうことが出ていることを周知しなさいということで市町教育委員会へも来ているところだが、これからこれに基づいた施策というのも行われていくと思う。

そういった中で、三次市ではこれらを取り入れて、一早く次の時代への一步を踏み出していくということで、今回の総合教育会議の中で決めていこうとしている三次市教育大綱に表現されていると思う。今日これからのスケジュールも示していただいたので、それに合わせて、教育委員会でも課題にしながら研究をしていきたいと考えている。

また、将来的に予測のつかない時代を迎える訳だが、一方では、国が示している学習指導要領では、特に3点あり、知識・技能・思考力・判断力・表現力など、さらには学びに向かう力、人間性等を養っていくことが重要だと思っている。これは今日もICTと道徳、心という表現があったが、その人間性に繋がる場所であろうかと思う。学校教育も多様なものの見方、考え方をしっかりと持ち、何が正しいのか、どうすればいいのか、どう対応すればいいのかと具体的に考えて、自分の生き方へつなげていくことの出来る子どもたちをしっかりと育てることを目標に、新たに取り入れていくものをしっかりと活用した学校づくりを進めていけるよう、考えていきたい。本日は貴重な機会で、色々な委員の皆様からご意見をいただいた。引き続きよろしくお願ひしたい。

福岡市長 それでは進行を事務局に戻したいと思う。

秘書広報課長 以上をもって、令和元年度第2回三次市総合教育会議を終了とさせていただきます。